

# 今、求められる戦略。「選択と集中」

株式会社プラマックス 代表取締役社長 伊澤 三千夫

最近、「〇〇製品の生産設備の停止または廃止、〇〇製品の生産縮小」というような新聞記事をよく目にするようになりました。ほんの2ヶ月前までは「工場閉鎖や生産縮小のための人員削減」という記事が目についていたことに比べ大きく風向きが変わってきています。

このことは大企業を中心とした日本の企業が「選択と集中」に踏み切っていることを意味しています。「選択と集中」とは**自社の得意な事業領域を明確にし、経営の資源(人材、資産等)を集中的に投下する**戦略を言います。

企業は人、物、金、情報といった資源を事業に投入することで営業活動を行っています。経営とはこの資源を効率的に投資して多くの利益をあげることです。景気のいいときにはこの資源を大量かつ複数領域へ投資して事業規模の拡大を目指すことも可能ですが、景気が落ち込むと拡大可能な領域は小さくなり会社の収益は圧迫されます。このような状況下では「自社の得意な領域、製品等に限られた資源を最大限に無駄なく投下する」方が収益向上を早期に実現できるのです。

日本経済のトレンドが業績の回復にあるとするならば、大不景気を経験した企業にとって**限られた人材や資産を高収益分野にシフトさせる「選択と集中」は、当然行うべき戦略**なのです。

「選択と集中」を実施するとき問題になるのが管理部門です。収益を生まない管理部門は閉鎖するわけにはいかないものの、多くの労力と多くの資産を必要とします。特に給与計算や社会保険業務などは、専用のPCやソフト、その保守料、給与明細書などの消耗品費などコスト負担が大きく企業の収益を圧迫する要因にもなります。このような業務の人的・資産的負担を軽減するには専門家へのアウトソーシングが有効です。

私たちプラマックスがご提案しているのは**「勤怠計算・給与計算・社会保険業務・労働保険業務のフルアウトソーシング」**で、お客様が給与計算関連業務にかかる労力や資産を最小限に抑え、収益部門に集中させるためのサポートをしています。

プラマックスではすでに一部上場企業や外資系企業など多くの企業の給与計算業務を代行するなど豊富な実績を有しています。また社会保険・労働保険業務は併設するアイケイ社会保険労務士事務所(栃木社労士会所属)で行いますので、安心してお任せいただけます。具体的な業務内容や金額は[弊社HP内](#)にも記載されておりますが、お打ち合わせの機会をいただければ詳しくご説明いたします。貴社の「選択と集中」を実現する一助として、ぜひ、プラマックスのフルアウトソーシングの活用をご検討ください。

尚、総務・人事業務の質や量を的確に把握するために「職務の調査・分析」(「忙しい」や「難しい」を理解する)のお手伝いを無料にて対応しています。お気軽にご相談ください。